

小浜島の御嶽の神歌

波照間永吉

1. 小浜島の年中行事と祭祀組織の概観

小浜島は、沖縄本島の南西およそ400キロメートルにある八重山諸島の一つの島である。西表島のわずか東に位置し、主島石垣島の島影はもとより、竹富、黒島、鳩間島なども見え、あたかも八重山の臍のような地点にある。現在、島の人口は約400人。主たる産業は農業で、伝統的な稲作よりも、サトウキビの生産に重点が置かれている。また、近年は観光産業も興りつつあるが、総じて、八重山の伝統的な村落生活の姿を守っている島とみてよいだろう。

さて、小浜島では現在も多数の年中行事が行われている。これを簡単に示すと、次の通りである。(旧暦で示す)。

- 1月 ハチニガイ(初願い) —— 1日に一年中の豊穰と息災を祈願する。
 ユーニガイ(世願い) —— 正月のミズノエ戌、午、亥の日に農作物の豊穰を祈願する。
- 2月 タカビ(崇べ) —— 島中の人々の健康祈願。
 フファバニガイ(草葉願い) —— 農作物の恙ない成長の祈願。
- 3月 プーニンガイ(穂願い) —— 3月のミズノエ午、亥の日に稲の出穂の祈願。
- 4月 ウーニンガイ(大願い) —— 4月のミズノエ午、亥の日に稲の豊穰祈願。(この日より61日目に豊年祭を行う)
- 6月 ポーリィ(豊年祭) —— 稲の豊穰感謝祭(バンプトゥギ)と来年の豊穰祈願祭(ヤイスユーニンガイ。クモーポーリィとイローラポーリィの2儀式。)
- 8月 ユーニガイ(世願い) —— ミズノエ午、戌の日に一年の豊穰を祈願する。
- 9月 クングァヂィヨーイ(9月祝い) —— 菊酒の祭。島中の人々の健康祈願。
 キチィガン(結願) —— 1年の諸祈願の成就を感謝し、諸願を解く。
 現在はシチィ(節祭)を吸収した、島の一大

祭礼。

10月 タカビ(崇べ) —— 島中の人々の健康祈願。

タナトゥリィ(種子取り) —— 稲の播種儀礼。稲の種子の恙ない成育を祈願し、稲の豊穰を祈願する。

これらの年中行事のうち、ハチニガイ、プーニンガイ、ウーニンガイ、ユーニガイ、タナトゥリィの5祭祀とポーリィには、各ワン(御嶽)のヤマニンジュ(山人数=御嶽の祭祀集団)がそれぞれのワンに詣でて祭儀に参加する。

ところで、小浜島のワンで執り行われる祭祀の主祭者はチーカー(司。八重山では一般的にチカサと称される)である。この神女を中心にして、小浜島の女性の神役組織は構成されている。すなわち、チーカー、バギィ、カンサンチィ(またはブナズィカシラ)、ブナズィ(ブナンチィとも)という組織である。この神女組織の頂点に、ティダクシワン(照後御嶽)のチーカーがウフチーカーとして存するのである。ウフチーカーは大司の意で、島の神女の最高位である。ティダクシワンのチーカーがこの地位につくのは、このワンが島のワンのなかで一番格が高いことによる。なお、バギィは脇司のことで、チーカーの補佐役である。カンサンチィは一般に神佐事と書かれる。サジィは補佐役の意であるから、カンサンチィは神事に関わることを補佐する下級の神役である。ブナジィカシラとも称されるように、ヤマニンジュの妻女であるブナジィの頭役である。この神女組織の底辺にいるのがブナジィで、各家庭の主婦が勤める。

この女性の神役組織に対して男性の神役もある。それは、チンチビを頂点としたもので、その下にムラブサ、ヤマニンジュと組織されていたが、現在はムラブサ職はなくなっている。チンチビは、本来、八重山各地にみられるカンマシ(男性神役)にあたる神役であるが、現在は適当な人物を選任している。祭祀に参加するのはもとより、台風後のワンの清掃などに従事するという。任期は1年である。

ムラブサは20年程前迄はあったという。各ワンから出て、ムヌン(物忌み)の時には各戸よりお握りを集め、総代役の家に行って行ってチーカーへ差し上げたり、グシャクマイ(五勺米。神への献納米)を集めるなどの仕事に従事していた。各ワン1名で、4人のムラブサがいた。現在はその職務をチンチビが

代行している。

ヤマニンジュはワンに所属する村人である。いふなれば、本土の神社の氏子集団に対応するものと説明される。その妻女がブナジィである。

このような神役組織の下に小浜島の年中の祭祀は執行されているわけであるが、本稿ではワンで歌われる神歌の発掘という観点から、八重山では例の少ない、神女の担う神歌とそれのうたわれる儀礼過程を記述していきたい。

なお、本稿は1989年7月21・22日に行われたポーリィの調査記録である。この調査は、沖縄県教育庁が国庫の補助を受けて実施した無形民俗文化財記録作成事業「沖縄の神歌伝承活動」の一環として行われた。調査は森田孫栄氏と筆者が担当し、その成果は既に、森田孫栄氏の手によって「竹富町小浜島のポーリィの神歌」⁽¹⁾として報告されている。本稿と併せてご参照頂きたい。

2. ワンポーリィの儀礼過程

以下、本稿ではティダクシワン、カータワンの儀礼過程を中心に記述をしていく。ティダクシワン、カータワンの儀礼がほぼ先行して行われるため、サクイワン、ナカヤマワンの儀礼についてその全体を観察することができなかったからである。なお、表示した時刻は、筆者の手元の時計による、おおよそのものである。

1) ティダクシワン、カータワンの儀礼過程

午後1時30分頃。イベの内部にウフチィカーやカータワンのチィカー、ブナンチィらが入って祭祀の準備をしている。この時刻までに、女性の神役たちは、早朝からそれぞれの元であるコーキワン、カータで祈願の行事をすませ、11時ころからティダクシワン、カータワンの祭祀の準備をするという。ウフチィカー、カータワンのチィカーは白い神衣装（朝衣、チョーと称する）を羽織っているが、ブナンチィは色柄の着物姿である。イベの香炉はティダクシ、カータそれぞれ別があり、その2つの香炉の前には花米、御酒（泡盛）、御香、クパンと称される神饌などの供物が並べられる。クパンは生豆腐と水炊きした長さ10センチ、巾3～4センチの短冊型の牛肉を皿に盛った物である。この準備が整った所で両ワンのチィカー（以下、ウフチィカーとチィカーの区別の要のない時はチィカーとのみ記す）は線香をとぼし香炉に立て、神への願

詞をあげる。願詞の唱えがすむと、御酒をコップに置いて置く。次いで、それぞれの香箱の花米を香炉の前に3度摘んで置き（これをパナを取るという）、その上にコップの御酒を3度こぼしかける。これから神への祈願がはじまる。

チーカーがイベの香炉に向かって願詞を唱えだすと、後ろのブナンチー一同も正座して合掌してそれに和す。願詞の唱え上げが終わると、ウフチーカーとチーカーは互いの香箱を取り交わし、言葉をかわす。その後、ウフチーカーの香箱はイベ内のブナンチー一同へまわされる。その香箱を手にしたブナンチーは両手で受け、捧げて一礼する。この儀礼の後、ウフチーカー、チーカーの両人はイベ香炉に向きなおし、正座のまま合掌した手を膝の前の地面に軽くトントンと打ちつける所作の拝礼（例えばこの拝礼を西表島古見ではミスパイ、パイなどと称している）を行う。この拝礼が終わると、再びウフチーカーの香箱がイベ内のブナンチー一同へ回される。次いで、チーカーの香箱も一同へまわされる。

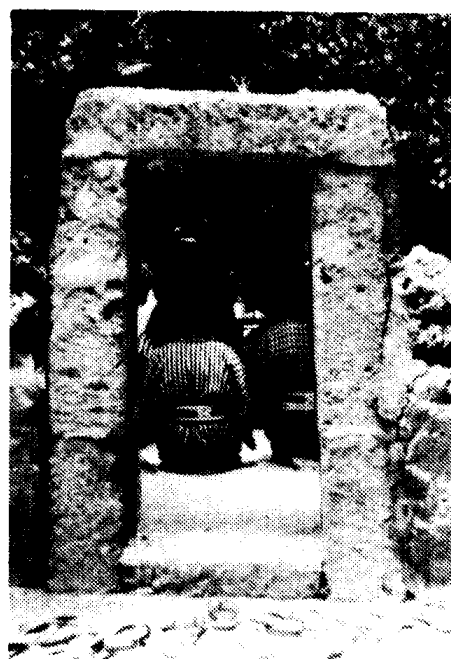
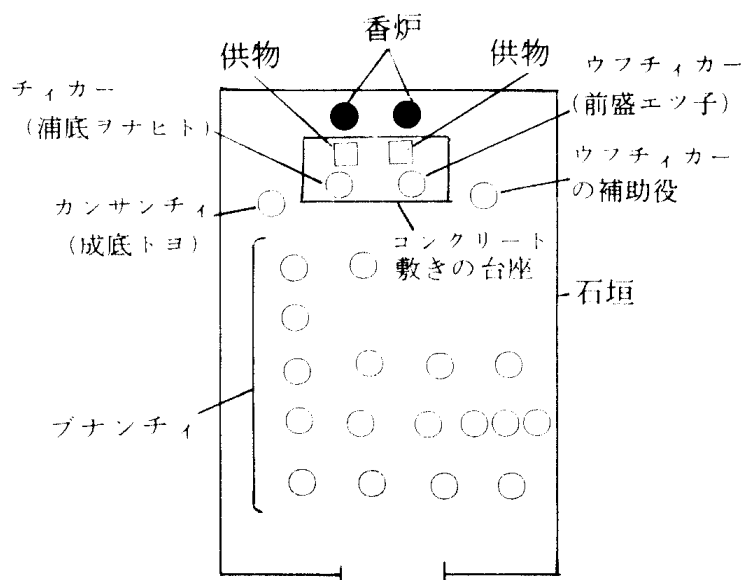
その後、ヤマニンジュから差し出された御酒2本（3合瓶）と花米がチーカーに渡される。

チーカーはクバンの品を箸ではさみ、起こす。これをハチーを起こすという。そして、線香をとぼし香炉に立て、合掌し、祈願を行う。この祈願がすむとチーカーは、ヤマニンジュから捧献された、角膳に盛られた花米を香炉の前に3度摘んで置く。そして再び合掌・祈願を行う。そしてイベ内の一同で、合掌した手を膝の前の地面に軽くトントンと打ちつける所作の拝礼（パイ）を行う。この拝礼が終わるとイベの香炉の前に据えられた酒と花米を載せた角膳が下げられる。（捧げられたハチーはそのままである）。

次に花米とお酒（3合瓶2本）を載せた角膳とクバンの膳がチーカーの前に届けられる。チーカーはクバンのハチーを箸ではさんで捧げ、願詞を唱え、拝礼を行う。これを5回行うのであるが、1～4回迄は今年の豊穰に対する感謝・お礼であり、5回目は来年の豊穰祈願の為という。1～4回の拝礼をユースビ（世の首尾）といい、5回目の拝礼をユーンガイ（世願い＝豊穰願い）、またヤユーンガイ（来年の世の願い＝来年の豊穰願い）という。

この拝礼は、クバンのハチーを捧げた後チーカー、カンサンチーが願詞を唱え、その後、パナを取り、いわゆるパイを行う形式のものである。この拝礼の

1回で、5回行われるというニンガイの第1回と2回の儀礼が終了したことになるという。



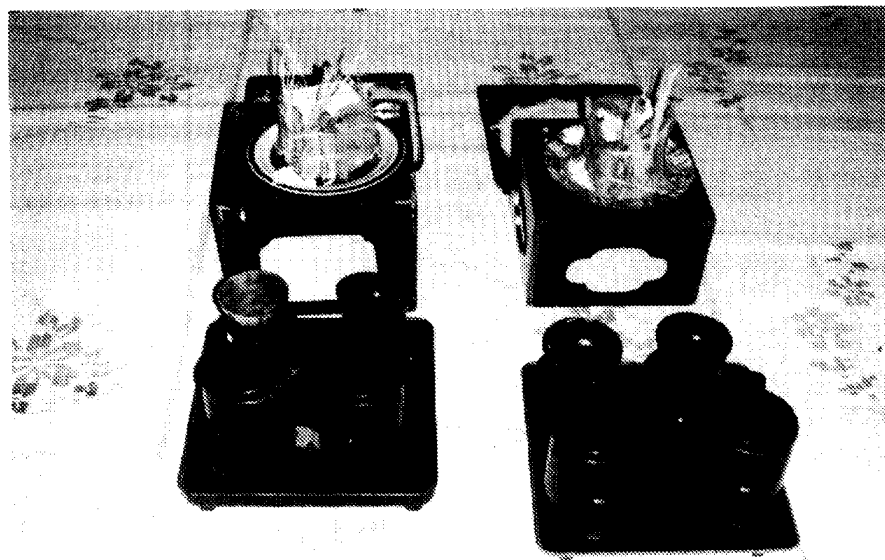
(図1. イベでの祭礼におけるチィカーらの位置図)

その後引き続き3・4回目のニンガイが行われる。まず、クパンの膳が新たにチィカーの前に差し出されると、チィカーはクパンのハチィを起こす。そして願詞を唱え、それが終わるとパナを取り、チィカー、カンサンチィ、ブナンチィら一同でパイを行う。この後花米の膳とクパンの膳が新たに出されると、チィカーは再びハチィを起こし、線香をともす。花米の膳の米で神占のウクジィを取り、神意を聞く。そして盃のお酒を3回傾けて香炉の側にこぼしかけ、盃に新たにお酒を注ぐ。この盃の儀礼を3度行い、次にパナを取ってこの拝礼は終わる。

引き続きヤイユースニンガイがチィカーの祈願で始まる。チィカーの祈願の後、チィカー、カンサンチィ、ブナンチィ一同でパイを行う。これで5回目の拝礼が終わり、イベでの全祭礼が終了したこととなる。イベの香炉の前に並べられた供物はチィカーによって下げられ、ブナンチィらはチィカーの後片付けの手助けをし、イベから出て後方の神屋（八重山で一般にオンヤー＝拝み屋、パイデン＝拝殿等と称する）に移動する。（2時17分頃）

午後2時30分頃. 神屋の内には花米を盛った膳の他、クパンの膳やミシャグ（神酒. 泡盛ではなく、米を挽いて水を加え醗酵させたドロク状の酒）の

入ったバダシィ（ミシヤグをいれる祭具。把手と注ぎ口の付いた直径十数センチ、高さ20センチ程の円筒形の酒器）を載せた膳、ヤマニンジュ各戸から捧げられたカームチィ（皮餅、芭蕉の葉で包み蒸した餅）、ムリウサイ（盛り御肴）などが飾られた膳が床に飾りひろげられている。クパンは一名ウシィクパンとも称されるように、長さ約10センチ、巾3～4センチ程の短冊型に切った水炊きの牛肉を豆腐の周囲に柵状に立てめぐらした、直径14～5センチの円柱状のもので、上部と下部の2か所を藁で締めである。これを皿の上に据え、膳に載せてある。このユーンガイのクパンのお下がりには女性のみが食せるといふ。また、ウシィクパンはティダクシ、カータの両ワンのみで、他のワンはかまぼこやテンプラなどをつくったものである。



（ウシィクパン〈上方〉とミシヤグの膳）

チィカーは神屋の神棚へローソクを灯し、線香を上げ、願詞を唱える。神棚には中央に香炉が据えられ、その両脇に青々とした薄を生けた花瓶一対、その前に灯明一対と御酒のコップが置かれている。薄を生けるのは、ユーンガイ・ポーリィ、タニドゥリィ（播種祭）、キチィゴン（結願祭）などに限られている。チィカーの祈願の後、神屋の内に居るカンサンチィ、ブナンチィ一同はパイを行う。この時ヤマニンジュを代表してチンチビと男性有志（4人？）が拝礼を行う。男性のこの拝礼は、イベに向かって正座して合掌した後立ち上がり、そして合掌して元の正座に直り、合掌する所作を4度行うもので、これもパイと称される。神屋の後方のワンの神庭には筵を敷いた座が設えられてお

り、そこにはヤマニンジュ・来賓らが着座しているが、チンチビらが拝礼をなすときには正座になおりにこれを和す。ヤマニンジュの服装は、黒や紺色の着物に帯を後ろに結ぶ祭礼の礼装である。

この拝礼の後、ティダクシ、カータ両ワンのチーカーは盃と酒瓶を手にして神屋の外に出て行くが、これがどのような儀礼に繋がるかは未調査である。

チーカーは神屋の内に戻ってくると神衣装をとる。その後、神棚の酒が神屋の内に居るブナンチィら一同へまわされる。チンチビら男性神役も戴く。この酒は村から捧げられたものという。

午後2時55分頃. 神棚の香炉に線香がともされ、2人の給仕役のブナンチィが、白地に薄く小さな格子縞のはいった神衣装（タナシィと称する）を羽織り、神屋に飾られたミシャグの入ったバダシィと椀の膳を持って神庭のヤマニンジュの座へおりて、ミシャグペーシィを行う。神庭の筵敷きの座の中央部前方には高膳に据えられたタティウサイ、コップを載せた三方と3合瓶を載せた角膳そして、ミシャグペーシィに先立って飭られたバダシィと椀（台子付き）の膳が据えられている。タティウサイはルクジュ（六条豆腐、但し、油に揚げたものである）を大皿に盛ってある。

タティウサイと御酒が一座のヤマニンジュ、来賓に巡った後でミシャグペーシィの儀礼は行われる。給仕役のブナンチィの1人は台子に据えられた黒塗りの椀（2こ）の膳を捧げ、1人はミシャグの入ったバダシィを両手で捧げてミシャグを受ける男性2人に対座する。ブナンチィが椀の膳を差し出すと客の男性2人はそれぞれ台子まま椀を受取り、もう1人のブナンチィからミシャグを注いでもらう。ブナンチィ2人は膳とバダシィを置き、手拍子と共にミシャグペーシィの歌を歌い出す。着座しているヤマニンジュは唱和しない。

ミシャグペーシィの歌

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. ふーやまぬ みしゃぐ むとぅいり | 大御嶽の神酒 むとぅいり
(未詳) |
| おいしょーり なうれ | お召し上がり下さい 稔れ |
| むとぅいり なうれ | むとぅいり 稔れ |
| 2. にーぬ ていだぬ みしゃぐ むとぅいり | 根の太陽の神酒 むとぅいり |

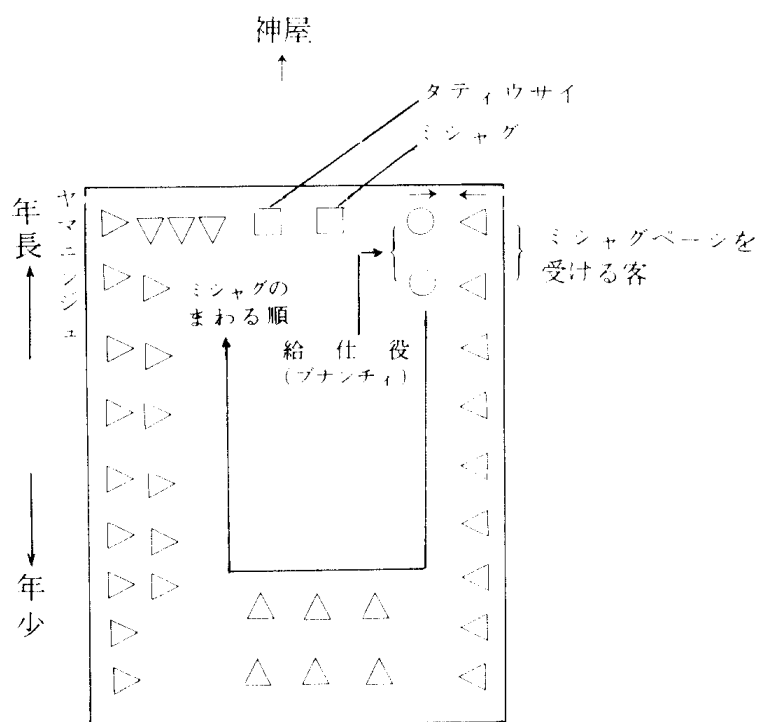
おいしょーり なうれ
むとらいいり なうれ
さかいいり なうれ

お召し上がり下さい 稔れ
むとらいいり 稔れ
栄えよ 稔れ

ミシャグペーシィの儀礼は来賓から始まり、神屋に向かって右手の席から順次2人ずつ献杯を受ける。ブナンチィが「おいしょーり なうれ」の歌詞を歌いつつ一礼すると、腕を両手で持った男性2人もこれに和して一礼する。第2節の「おいしょーり なうれ」「さかいいり なうれ」でも同様に、互いに礼をした後、客の2人は盃のミシャグを飲む。これで献杯は終わり、次の人に移る。

なお、歌唱の間、給仕役のブナンチィは手拍子をうつ。

こうして一座の人々全員に対するミシャグペーシィの儀礼が一巡するとブナンチィは神屋の中に戻る。来賓らも退出する。(その後、神庭の座でポーリィの神歌がヤマニンジュによって歌唱される。この歌が終わると歌唱者達はワンを出て行く。ポーリィの神歌は調査が禁止されており、我々の調査も中断した。)(3時10分頃)。



(図2. ミシャグペーシィの座)

午後3時45分頃. チィカー、カンサンチィ、ブナンチィらが朝衣を着け、

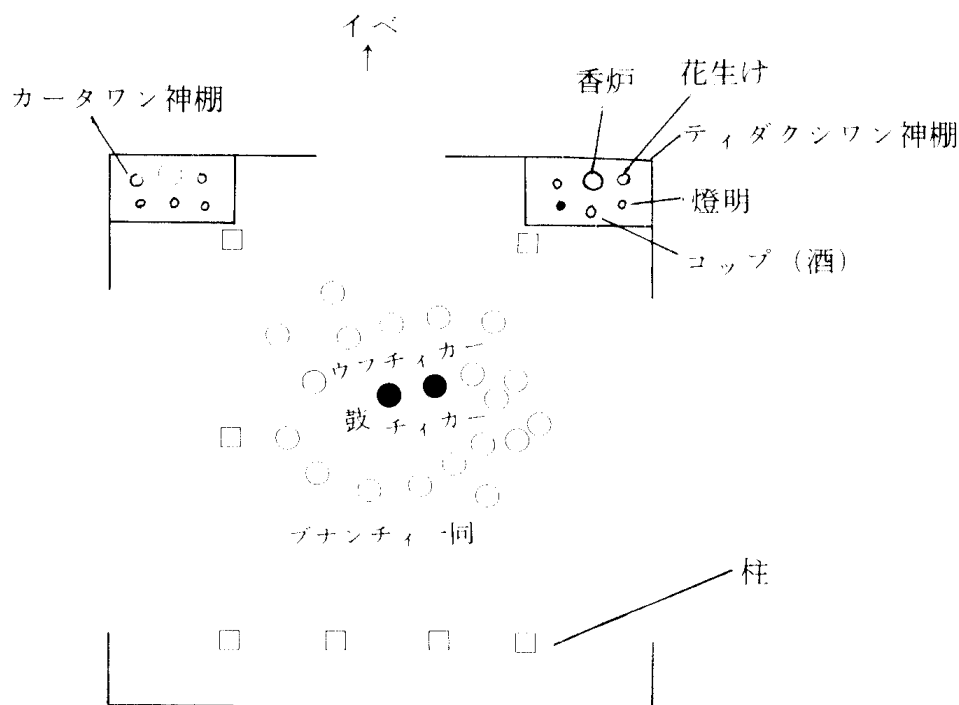
神屋の内に円陣を組んで立つ。ポンポンと鼓が2打され、チーカーの先導でカンブドゥリィ（神踊り）が始まる。

カンブドゥリィの歌（ティダクシワン・カータウン）

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. きゆぬ ひーぬ うーにがい | 今日の日のお願い |
| くかにぴいーぬ うにがい | 黄金日のお願い |
| ムムカフーヌ ウニガイ（以下節、省略。*印の箇所に入る） | |
| 2. まいしぬ うやがん | マイシの親神 |
| ちちわかぬ まむるす | チチワカの守る神 |
| * | |
| 3. やまにんじゅば すらしょーり | ヤマニンジュを揃わせになり |
| すりにんじゅば すらしょーり | 揃い人数を揃わせになり |
| * | |
| 4. にぬぶやーぬ うざしき | 根の母屋の御座敷に |
| くにぶやーぬ かんざしき | クニブ屋の神座敷に |
| * | |
| 5. みしゃぐばな しきとーし | ミシャグの初をお供えして |
| うんざきばな しきとーし | お酒の初をお供えして |
| * | |
| 6. ちかさまいば うちけーし | チカサ様をお招きして |
| ていじるすーば うちけーし | 手摩る人（神女様）をお招きして |
| * | |
| 7. うーにんがいは しー しいさるば | 大願いをして申し上げたら |
| かんにんがいは しー しいさるば | 神願いをして申しあげたら |
| * | |
| 8. うきとーりてい たぶらり | 受取って下さって |
| しきとーりてい たぶらり | 聞き取って下さって |
| * | |
| 9. ちかさまいぬ まりやーた | チカサ様がお生まれになっ |

- | | | | |
|-----|--|---|---|
| | ちじるすーぬ まりやーた | た | 手摩る人がお生まれになった |
| | * | | |
| 10. | うかんとらん かなしょーり
まむるすーとらん しなしょーり | | お神とも叶わせて下さり
守る神とも撓わせて下さり |
| | * | | |
| 11. | かん ちょーまし たぶらり
ぬし ちょーまし たぶらり | | 神を鳴響ませて下さり
主を鳴響ませて下さり |
| | * | | |
| 12. | にかぬ ゆーや ましなし

ひゃくさゆーや ましなし | | 明ける世はまし（優れ）にな
して
百才世はまし（勝り）になし
て |
| | * | | |
| | <以下、転調。> | | |
| 13. | にかぬ ゆーや ましなし | | 明ける世はまし（優れ）にな
して |
| | エー ブース（以下節、省略。***印の箇所に入る） | | |
| 14. | ひゃくさゆーや ましなし | | 百才世はまし（勝り）になし
て |
| | ** | | |
| 15. | くんざしき むすびょーり | | この座敷に結んで下さり |
| | ** | | |
| 16. | かんざしき むすびょーり | | 神座敷に結んで下さり |
| | ** | | |
| | <以下、転調。> | | |
| 17. | アーパーメー アーパーメー（以下節、省略。***印の箇所に入る）
きゆぬ ひぬ ゆわい | | 今日の日の祝い |
| 18. | *** | | |
| | くがにびいーぬ ゆわい | | 黄金日の祝い |



(図3. ティダクシ・カータワンのキャンプドゥリィの時の位置図)

2) ナカヤマワンのキャンプドゥリィの歌

以下では、途中から見学させて戴いたナカヤマ、サクイ両ワンの神女達の歌う神歌について記述していく。ナカヤマ、サクイの両ワンでの祭儀のうち、時間的に調査の許された儀礼はキャンプドゥリィのみだったからである。

午後4時30分頃. ナカヤマ・サクイ両ワンの神屋に向けて設えられた筵敷の座に、ヤマニンジュが着座している。そこへ、バギィチイカー、ブナンチイらが入来する。神女らはヤマニンジュへ一礼して神衣装を着け、準備する。座敷の斜め後方には、酒肴を準備する為の調理場が設えられ、若いヤマニンジュらが立ち働いている。これらの青年達は平服で各自の仕事に従事している。膳の準備が整ったところで給仕役の青年が、座敷の中央前方の角膳にお酒の入った錫瓶やとっくり、盃を載せた三方などを据える。錫瓶の口にはサンダンカの花が差してある。タティウサイはルクジュである。バギィチイカーを先頭に、ブナンチイ達がヤマニンジュと対座する形で着座する。着座しているヤマニンジュは黒または紺地の着物に帯を後ろ結びにした祭礼の礼服である。

ひととおり歓談した後、おもむろに神女らは立ち上がり、図4の陣形に立ち、バギィチイカーの打つポンポン ポンという鼓の音を合図にキャンプドゥリィの歌を歌い出す。(このワンのチイカー職は現在空位となっている)。

カンブドゥリィの歌（ナカヤマワン）

- | | |
|--|---|
| 1. きゆぬ ひーぬ うーにがい
くがにひーぬ うーにがい
ムムカフヌ ウーニガイ（以下節、省略。*印の箇所に入る） | 今日の日の大願い
黄金日の大願い |
| 2. なかやまぬ うやかん
ちじばかぬ まぼるそー
* | 仲山御嶽の親神
チジバカの守る神 |
| 3. やまにんずーば すらしょーり
すーにんずーば すらしょーり
* | ヤマニンジュを揃わせて
総人数を揃わせて |
| 4. にぬぶやーぬ うざしき
くにぶやーぬ かんざしき
* | 根の母屋の御座敷に
クニブ屋の神座敷に |
| 5. みしゃぐばな しきとーし
うんざきばな しきとーし
* | ミシャグの初をお供えして
御酒の初をお供えして |
| 6. ちかさまいわ うちけーし
ていじるそーば うちけーし
* | チィカサ様をお招きして
手摩る人をお招きして |
| 7. かんにがい しさるば
うーにんがい しさるば
* | 神願いを申し上げたら
大願いを申し上げたら |
| 8. うきとーり たぼらり
しきとーり たぼらり
* | お受取りになって
お聞き取りになって |
| 9. ちかさまいぬ まりやーた
ていじるそーぬ まりやーた
* | チィカサ様がお生まれになっ
て
手摩る人がお生まれになっ
て |
| 10. うーかんとーり かなしゅーり | 大神と叶わせになって |

- まぶるすーとう しなしょーり
 守る神と撓わせになって
- ***
11. かん ちょーまし たぼらり
 神を鳴響ませて下さって
 ぬし ちょーまし たぼらり
 主を鳴響ませて下さって
- ***
12. にかぬ ゆーや ましなし
 明ける世はまし（優れ）にな
 ひゃくさゆーや ましなし
 百才世はまし（勝り）になし
 て
- ***
- <以下節、転調。>
13. にかぬ ゆーや ましなし
 明ける世はまし（優れ）にな
 して
- エーフーシ（以下節、省略。***印の箇所に入る）
14. ひゃくさゆーや ましなし
 百才世はまし（勝り）になし
 て
- ****
15. かんざしき むすびょーり
 神座敷にお結びになって
- ****
16. くぬ ざしき むすびょーり
 この座敷にお結びになって
- ****
- <以下節、転調。>
17. アーパーマー アーパーマー（以下節、省略。***印の所に入る）
 きゆぬ ひぬ しゃにしゃ
 今日の日嬉しさよ
18. *******
 くがにひぬ しゃにしゃ
 黄金日の嬉しさよ
19. *******
 くぬ ざしき むーす
 この座敷にむーす（未詳）
20. *******
 かんざしき むーす
 神座敷にむーす

21. ***

むすびぬ かいしゃ

結びの美しさ（見事さ）よ

22. ***

きゆぬ ひぬ さにしゃ

今日の日の嬉しさよ

23. ***

きゆぬ ひぬ さにしゃ

今日の日の嬉しさよ

24. ***

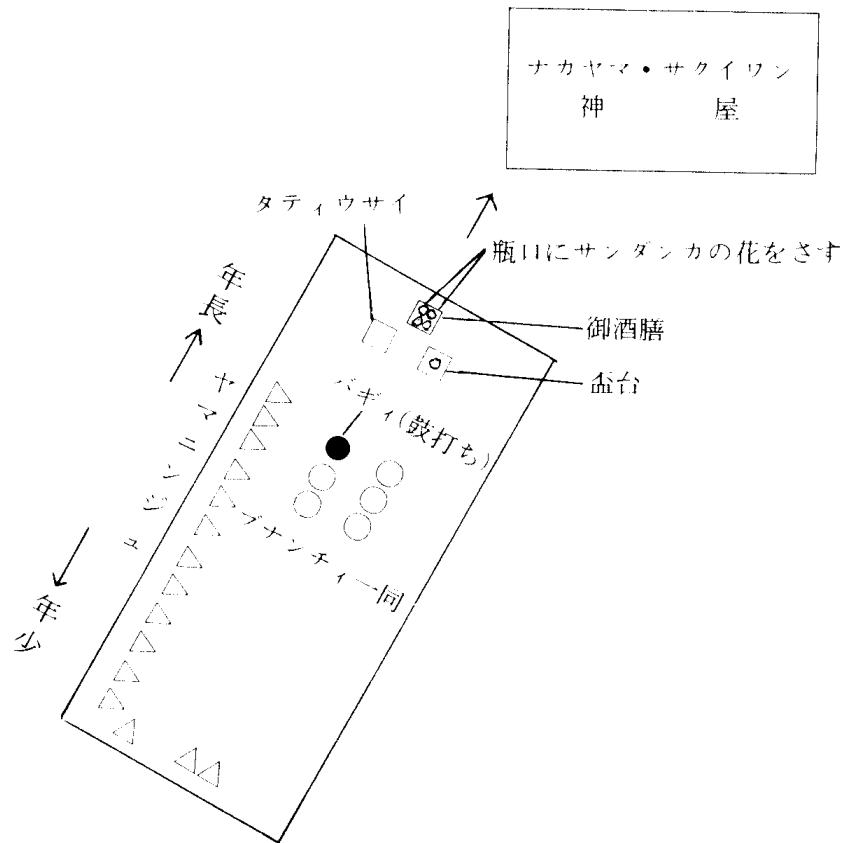
きゆぬ ひぬ さにしゃ

今日の日の嬉しさよ

ナカヤマワンのカンブドゥリィの歌は、先にみたティダクシ・カータワンのそれと同じく、バギィチィカー、ブナンチィの一同を歌唱主体として、斉唱形式で歌われる。ただ、鼓の入る箇所が多く、平均的にみると、一節内の対句部の歌詞を歌う間に、ポンポンと鼓を2打する打奏が5回あり、節末のハヤシの歌唱の間に鼓の2打が3回あるようである。それが、第13節以下最終節までは一節につきポンと鼓を1打する打奏が8回繰り返され、かなり軽快となっている。

また手の所作を第5、6節でみてみると、第5節では、対句項最初の歌詞を歌うところで、掌を下にむけ腰の高さで構えた両手のクロスを解いて左右に開き、2番目の対句項の歌詞を歌うところでクロスさせる。そして、ハヤシを歌うところでクロスを再び解き、第6節の対句項最初の歌詞を歌うところで両手をクロスさせ、2番目の対句項を歌う時にはそのクロスを解く。で、ハヤシのところでは両手をまたクロスさせる、という具合に交互にクロスとオープンが入れ替わるのが原則のようである。ところが第13節以下では両手のクロス・オープンという所作（これを単位所作とみる）もその回数が増え、4回となり、かなり速いものとなる。

最終節の歌詞を歌い終わると、鼓のポンポンという音を合図に一同は着座し、正面（ワンの神屋の方向）に向かって合掌して終わる。神女らは各自元の席になおし、しばし歓談した後、神衣装をとり、その後退出する。神女の退出の後にはヤマニンジュによる次なる祭儀となる。



(図4. ナカヤマワンのカンブドゥリイの時の位置図)

3) サクイワンのカンブドゥリイの歌

午後5時5分頃. サクイワンの鳥居を前にした小さな広場の、筵を敷いた座敷にヤマニンジュが着座している。

午後5時10分頃. チーカー、ブナンチーらが神衣装を着け、ヤマニンジュと対座した後すぐに、座敷中央前方に飾られたタティウサイとお酒の膳を前にして整列する。タティウサイは黒塗りの高膳の上に据えられた高杯に飾られている。ティダクシ・カータワンのクパンと同形に作られているが、このワンではウシクパンではなく、短冊型に切ったかまぼこやテンプラ、赤く染めたゆでたまごなどを円柱形にし、その上部と下部を藁しべで縛ってある。そして、その頭頂にはサンダンカの花が差してある。御酒は錫瓶一対が角膳に据えられ、三方に盃が載せてある。錫瓶の口にもサンダンカの花が差してある。

午後5時12分頃. チーカーの鼓の音に合わせてカンブドゥリイの歌が始まる。

カンブドゥリィの歌（サクイワン）

1. きゆぬ ひーぬ うーにがい
くがにひーぬ かんにがい
ムムカフース ウニガイ（以下節、省略。*印の箇所に入る）
今日の日の大願い、
黄金日の大願い、
2. さくいぬ うやかん
ちじばかぬ まむるす
*
サクイ御嶽の親神
チジバカの守る神
3. やまにんぞーば すらしょーり
すーにんぞーば すらしょーり⁽²⁾
*
ヤマニンジュを揃わせて
総人数を揃わせて
4. にぬぶやーぬ うざしき
くにぶやーぬ かんざしき
*
根の母屋の御座敷に
クニブ屋の神座敷に
5. みしゃぐばな しきとーし
うんざきばな しきとーし
*
ミシャグの初をお供えして
御酒の初をお供えして
6. ちかさまいば うちけーし
ちじるすーば うちけーし
*
ツカサ様をお招きして
手摩る人をお招きして
7. かんにがい しさるば
うーにがい しさるば
*
神願いを申し上げたら
大願いを申し上げたら
8. うきとーりてい たぼらり
しきとーりてい たぼらり⁽³⁾
*
お受取りになって
お聞き取りになって
9. ちかさまいぬ まりやーた
ちじるすーぬ まりやーた
*
ツカサ様がお生まれになっ
て
手摩る人がお生まれになっ
て
10. うかんとーん かなしょーり
御神と叶わせになって

- まぶるすーとらん しなしょーり
 *
11. かん ちょーまし たぼーらり
 ぬし ちょーまし たぼーらり
 *
12. ねからゆーや ましいなし
 ひゃくさゆーや ましいなし
 *
- <以下節、転調。>
13. ねからゆーや ましいなし
 *
- エーブース (以下節、省略。**)印の箇所に入る)
14. ひゃくさゆーや ましいなし
 *
15. くぬ ざしき むすびょーり
 *
16. かんざしき むすびょーり
 *
- <以下節、転調。>
17. アーパーマー アーパーマー (以下節、省略。**)印の所に入る)
 きゆぬ ひぬ ゆわい
18. ***
 くがにひーぬ ゆわい
19. ***
 くぬ ざしき むーす
20. ***
 かんざしき むーす

守る神と撓わせになって

神を鳴響ませて下さって

主を鳴響ませて下さって

明ける世はまし (優れ) にな
 して

百才世はまし (勝り) になし
 て

明ける世はまし (優れ) にな
 して

百才世はまし (勝り) になし
 て

この座敷にお結びになって

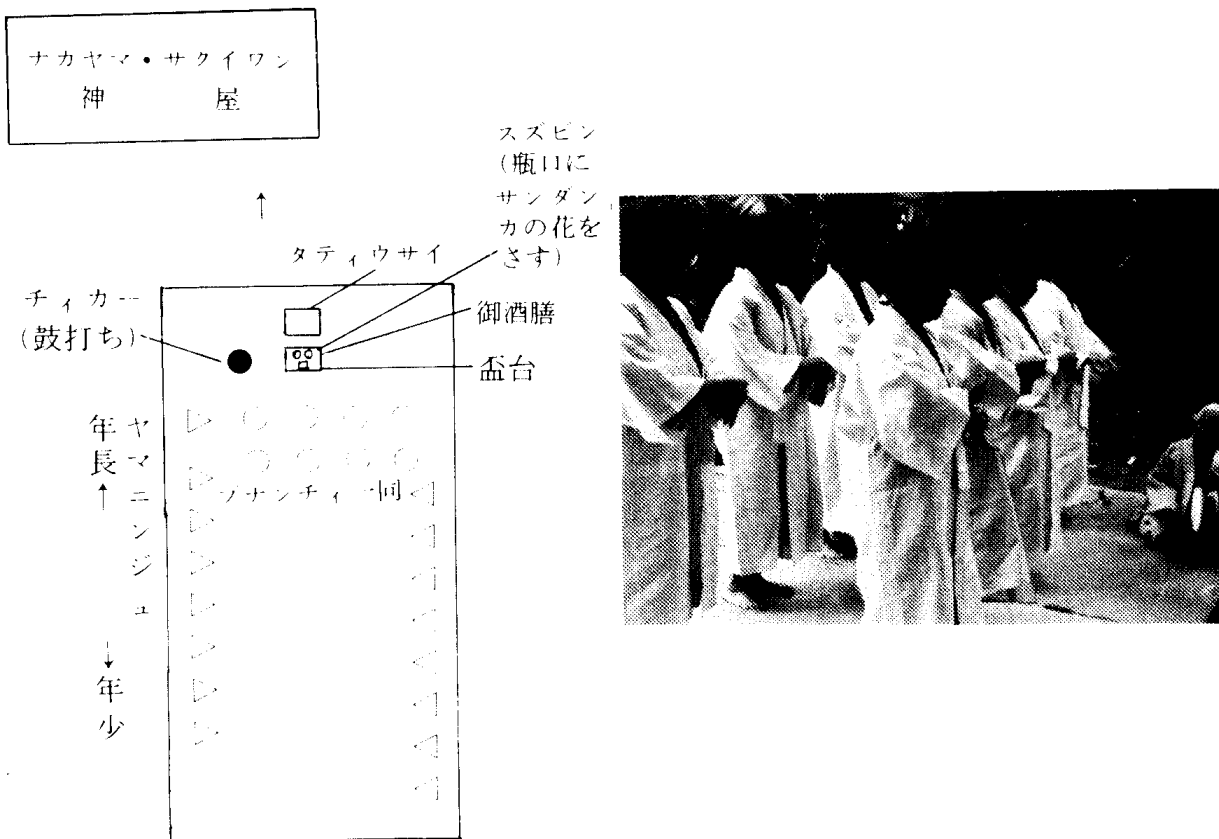
神座敷にお結びになって

今日の日の祝い

黄金日の祝い

この座敷にむーす (未詳)

神座敷にむーす



(図5 サクイワンにおけるカンブドゥリイの時の位置図)

3. おわりに

以上が小浜島の旧暦6月のユーンガイの儀礼過程と、チーカーやカンサンチ、ブナンチから神女集団によってワンで歌われる神歌である。この小浜島の神女の神歌が重要なのは、沖縄、宮古諸島においては神女を歌唱主体とする神歌がなお多数残存しているのに対し、八重山では例が少ない。また、まさに管見であるが、ヤマニンジュの妻女が神女として祭儀に参加し、神歌の歌唱主体となるのは、八重山にあっては小浜島のこの例の他、まだみていない。沖縄の神歌の世界にまた一つ貴重な資料が加えられたと考えている。

沖縄の神女組織の原基の部分に、集落の婦人全てが神女となる「村女皆巫の制」⁽⁵⁾があり、それが宮古狩俣や島尻、西原、池間島、来間島や沖縄久高島になお残存していることを考えるとき、八重山諸島にそれが見出せないことは筆者にとって一つの不思議であった。しかし、この度の調査で小浜島にそれが厳然と残っていること、しかもそれが御嶽の祭祀集団と密接なつながりをみせていることが明らかになったことは、八重山の御嶽信仰習俗をみるうえのみなら

ず、沖縄全域の祭祀習俗・組織の全体像を描く上でも貴重な資料となるはずである。

今後、このような観点からより精確な調査が進められれば、上記の課題の解決につながるものと考えている。あらためて、小浜という島の保持してきた文化の果たす役割の大きさを考えさせられたことである。

末筆ながら、このような貴重な調査研究の場を与えて下さった小浜島の大嵩秀雄先生、花城英行公民館長、ティダクシ、カータ、ナカヤマ、サクイ、カプニワンのウヤンキ、チンチビはじめヤマニンジュの皆様、そしてウフチーカー、チーカー、バギチーカー、カンサンチィ、ブナンチィの皆様へあつくお礼申し上げます。

注(1) 森田孫栄「竹富町小浜島のプーリィの神歌」『沖縄の神歌－沖縄の神歌伝承活動（Ⅲ）八重山諸島－』（1990年3月31日 沖縄県教育委員会）。

(2) 実際の歌唱の際には歌われなかったが、聞き取り資料により補った。

(3) 注(2)に同じ。

(4) 第21～24節は実際の歌唱の際には歌われなかったが、聞き取り資料により補った。

(5) 折口信夫「女の香炉」『折口信夫全集』第16巻72頁。

〔参考〕 以下に掲げる「カプニワンのカンブドゥリィの歌」は森田孫栄氏の資料提供によるものである（注1論文所収）。上記の各ワンの歌との比較資料として掲げる。森田孫栄氏のご好意に感謝申し上げたい。

なお、訳は一部筆者があらためた。

カンブドゥリィの歌（カプニワン）

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1. きゆぬ ひーぬ うーにがい | 今日の日の大願い |
| くがにひーぬ かんにがい | 黄金日の神願い |
| ムムがフヌ ウニガイ（以下節、省略。＊印の箇所に入る） | |
| 2. かふにぬ うやかんぬまい | カプニ御嶽の親神の前 |
| ちんつばかぬ まぶるそ | チンツバの守る神 |

- *
3. やまにんずわ するよし
すりにんずわ するよし
- *
4. にぬわやぬ うざしき
くにぶやぬ うざしき
- *
5. みしゃくばなわ しきとし
うざしきばなわ しきとし
- *
6. ちいかさまいば うんちけい
ていじるすば うんちけい
- *
7. かんにかいわ さりるん
うーにかいわ さりるん
- *
8. うきとぅり たぼーり
しきとぅり たぼらり
- *
9. ちいかさまいぬ まりやーた
ていじるそぬ まりやーた
- *
10. うがんとぅ かないたぼーり
まぶるそん かないたぼーり
- *
11. かん ちょーまれ したぼり
ぬしい ちょーまれ したぼり
- *
- ヤマニンジュを揃わせて
総人数を揃わせて
- 根の母屋の御座敷に
クニブ屋の御座敷に
- ミシャグの初をお供えして
御酒の初をお供えして
- チィカサ様をお招きして
手摩る人をお招きして
- 神願いを申し上げます
大願いを申し上げます
- お受取りになって
お聞き取りになって
- チィカサ様がお生まれにな
って
手摩る人がお生まれになっ
て
- 大神と叶わせになって
守る神とも叶わせになって
- 神鳴響まれをして下さって
主鳴響まれをして下さって

12. ねからゆや まさらいたぼり 明ける世は勝らして下さって
ひゃくさいゆや まさらいたぼり 百才世は勝らして下さって
*
13. くぬ ざしきんが むすびおーり この座敷にお結びになって
エーブス (以下節、省略。***印の箇所に入る)
14. かんざしきんが むすびおーり 神座敷にお結びになって
**
15. アファネーー アファネー (以下節、省略。***印の所に入る)
きゆぬ ひぬ ゆわい 今日の日の祝い
16. ***
くがにひぬ ゆわい 黄金日の祝い
17. ***
かんざしき むすびおーり 神座敷にお結びになって
18. ***
とらどらみぬ かいしゃ 止め (終わり) の美しさ
(見事さ) よ
ユワナウレ ユワナウレ 世ハ稔レ 世ハ稔レ